

兵庫県保険医協会第101回評議員会のご案内

2023年4月
兵庫県保険医協会
理事長 西山 裕康

協会は第100回評議員会後の半年、新型コロナ禍で問題点が明らかになった医療費抑制策の転換を求める運動、保険証廃止・オンライン資格確認義務化撤回の運動をはじめ、経営対策など会員の身近な要求に応える様々な活動を行ってきました。2023年度の活動方針を協議するため、標記の会議を開催いたします。万障お繰り合わせの上ご出席いただきますようご案内いたします。

■日時 **5月21日(日)13時～** ■会場 **兵庫県保険医協会5F会議室**

○第101回評議員会 13時～
〈議題〉2022年度会務報告と2023年度活動方針案の件、2023年度予算案の件、他

○特別講演 **16時～**

ポスト新自由主義の経済を考える ～身体に向き合う時代へ～



東京外国語大学 教授 **中山智香子** 氏

コロナ・パンデミックは社会のさまざまな矛盾を明らかにしました。命を守る社会保障の貧弱さこそ改善すべきであるはずが、日本政府が進めているのは、コロナ危機を奇禍としたデジタル化、そしてウクライナ危機に乗じた防衛費の増大・改憲論議、原発再稼働など、真逆の政策ばかりです。

今後の社会をどう展望していくのか。経済思想史を専門とし、現在の社会にまん延する新自由主義的思考の危険性と、身体性の重要性を鋭く指摘してこられた中山先生にお伺いします。

貴重な機会ですので、ぜひご参加ください。

【なかやま ちかこ】1964年生まれ。早稲田大学大学院経済学研究科理論経済学・経済史専攻博士後期課程単位取得退学、ウィーン大学院経済学研究科博士課程修了。現在、東京外国語大学総合国際学研究院教授。専門は経済思想史。著書に『経済戦争の理論 -- 大戦間期ウィーンとゲーム理論』(勁草書房)、『経済ジェノサイド -- フリードマンと世界経済の半世紀』(平凡社新書)が、共著に『アルジャジーラとメディアの壁』(石田英敬・西谷修・港千尋との共著、岩波書店)がある。

返信 FAX **078 - 393 - 1802**

■第101回評議員会

出席します 欠席します

■特別講演(16時～)

参加します(会場の都合上、事前の申し込みをお願いします)()人

地区

氏名

兵庫県保険医協会 650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F
TEL078-393-1817 FAX393-1802 組織担当 杉本

兵庫県保険医協会

神戸支部ニュース

365号

2023年4月25日付

発行 兵庫県保険医協会神戸支部
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F
兵庫県保険医協会 TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

研究会「新型コロナ感染症 場末の救急病院奮闘記」

コロナ最前線の臨場感あふれる報告

神戸支部は4月1日、研究会「新型コロナ感染症 場末の救急病院奮闘記」を開催。神戸掖済会病院救急科・総合診療科部長の馬屋原拓先生が講演し、29人(来場7人、Zoom22人)が参加した。三村純先生の感想を紹介する。



神戸掖済会病院救急科での新型コロナ第1波からの対応を紹介した馬屋原先生

年々開花の早くなる桜が神戸でも満開になった去る4月1日、保険医協会会議室において、神戸掖済会病院の麻酔科・救急部長として日々ご多忙の馬屋原拓先生をお招きして「新型コロナ感染症 場末の救急病院奮闘記」と題する講演会が開催されました。

小生、馬屋原先生(以下先生)には日頃の診療においてたくさんの症例を受け入れていただき大変お世話になっておりまして、一も二もなく馳せ参じました。

先生のユーモアたっぷりの自己紹介から始まったご講演は、コロナが日本に上陸して第1波から現在に至るまでの先生と掖済会病院の悪戦苦闘ぶりを、ご自身が投稿されたツイッターを振り返りながら解説していただきました。

当初のPCR検査もろくにできない状況、患者が爆発的に増えてからの保健所や他の救急病院との確執、院内での病室調整の困難等々、淡々と語られる言葉の裏には想像を絶するご苦勞がおりであったと拝察するに十分な内容であり、臨場感あふれる現場の声が聞ける貴重な機会となりました。

さて、多くのコロナ患者を救った掖済会病院の救急部が「場末」であるわけがないのですが、あえてこのようなタイトルで話をされた先生の謙虚さと、感染爆発の超多忙な日々のなかでも在宅医療のスタッフや保健所職員への敬意も忘れずに表される馬屋原先生の誠実な人間性にも深く感銘を受けた講演でした。垂水区の「場末」のクリニックとしては掖済会病院がバックに居てくれて幸せです。

【垂水区・みむら内科クリニック 三村 純】

研究会「閉塞性睡眠時無呼吸症」感想文

睡眠時無呼吸症は深刻な健康問題

神戸支部が3月11日、研究会「閉塞性睡眠時無呼吸症～個別的医療で健康寿命の改善を！～」(講師：中央区・前田呼吸器科クリニック睡眠医療センター 前田均先生)に参加した佐々木徹先生の感想を紹介する。

会の冒頭、武村義人副支部長より前田先生は大学の同期生であって、学生時代から秀才で鳴らした先生であるのご紹介されました。

さて、今回の演題である睡眠時無呼吸症SAS(Sleep Apnea Syndrome)は、米国においてはAHI(Apnea Hypopnea Index)が ≥ 5 で定義されている。自覚症状として、全身倦怠感、朝の頭痛、昼間の眠気を伴う。治療としてCPAP(Continuous Positive Airway Pressure)が導入される。SDB(Sleep Disordered Breathing)は一般人に比べて、高血圧(2倍)、虚血性心疾患(2-3倍)、脳血管障害(3-5倍)、不整脈(2-4倍)が多い。また60才以上のAHI ≥ 20 の患者さんは9年以内に3分の1が死亡したと報告されている。日中の眠気による交通事故の危険も忘れてはならない。治療はCPAPであるが、その適応は米国ではAHI ≥ 15 であるが、日本ではAHI ≥ 40 である。循環器系の合併症はAHI ≥ 30 で危険が高まるとされている。SASのほとんどを占めるOSAS(Obstructive {閉塞性} SAS)には、気道の狭窄を補正するデバイスも考慮される。CPAP治療時1日4h以上、70%以上の日数導入されていることが良いコンプライアンスとされる。

OSASを放置すると、心血管合併症のオッズ比は、高血圧1.39、心不全2.38、虚血性心疾患1.27、心房細動4.0とされる。脳卒中の70%にSDBが合併する。心不全にCPAPを導入すると中枢性無呼吸は改善するが、閉塞性無呼吸は改善しない。

無呼吸による交感神経の過興奮が心不全を悪化させ、呼吸再開時の強い胸腔内陰圧を介して大動脈解離を誘発するという。また、2型糖尿病の40-70%に睡眠障害が、70%にOSASが合併する。睡眠障害により食欲抑制ホルモンのレプチンが低下し、



睡眠時無呼吸症の治療法についてわかりやすく講演した前田先生

(3面につづく)

(2面からのつづき)

食欲増強に働くグレリンが増加する。OSASは緑内障や夜間頻尿の合併が高い。無呼吸による低酸素暴露は酸化ストレスを増強し、転写因子NF- κ BやHIF-1を活性化し、TNF- α やIL-6などの炎症性サイトカインの産生を促す。血管拡張物質NOはOSASで低下しているがCPAP治療で改善する。

SASは健康寿命を脅かす深刻な問題であり、ご心配の先生は、前田睡眠医療センターでの精査をお勧めします。

【垂水区・佐々木内科医院 佐々木 徹】

「保険証廃止の撤回を求める」請願署名 ご協力をお願いします！

政府は健康保険証を廃止し、任意であるはずのマイナンバーカード利用を強制する法案を今国会で成立させようとしています。

保険証が廃止されれば、保険料を支払っていても申請漏れ等により「無保険」となる者が続出し、また、マイナンバーカードを使わない自由をはじめ基本的人権の侵害、カード紛失・盗難等のトラブル、個人情報流出や経済的被害などのリスクが拡大します。「現行の健康保険証廃止方針を撤回すること」の一点を求める署名にぜひご協力をお願いします。

署名の追加注文は、

TEL 078-393-1807 協会事務局まで



↓オンライン署名はこちらから！



職員接遇研修会 **スタッフの接遇の基本とクレーム対応**

日時 5月27日(土) 14時30分～17時
会場 保険医協会会議室
講師 水原道子先生(元大手前)
参加費 1000円

定員いっぱいとなり、
受付を締め切りました

お申し込み・お問い合わせは、TEL 078-393-1807 まで